

『ミクロ-マクロ媒介問題の視点から意見変容効果を生み出す

ミニ・パブリックスの討議プロセスを分析する』

大久手計画工房 伊藤雅春

第1章 はじめに

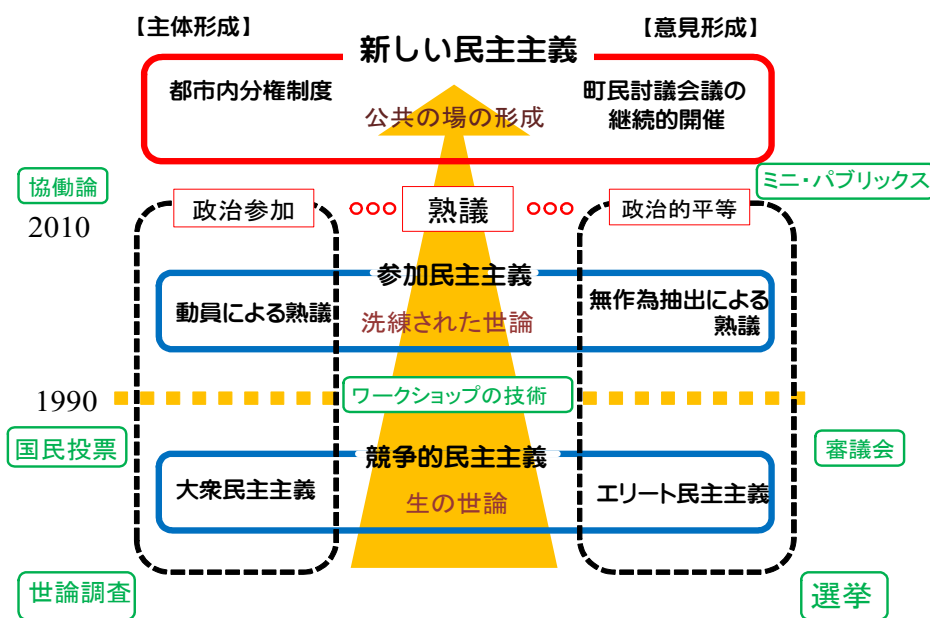
第1節 豊山町における社会実験としてのミニ・パブリックス

豊山町における町民討議会議の継続開催は、小規模自治体における熟議民主主義の可能性を探求する社会実験として実施された。愛知県豊山町は、南は名古屋市北区、東は春日井市、北は小牧市、西は北名古屋市にそれぞれ隣接しており、南北約 3.2km、東西約 2.7km、総面積は 6.19km²のコンパクトな自治体である。総人口は、15,300 人あまり（2016 年 3 月 1 日現在）、小学校が 3 つと中学校が 1 つというコミュニティがそのまま自治体となったような小規模自治体である。

豊山町にとっての町民討議会議開催の目的は以下の 3 点に要約することができる。

- 1) 協働のまちづくりに対する意識向上の機会とすること
- 2) 潜在化している活動市民を発掘し、町政に対する多様な町民の参加意識を高めること
- 3) 総合計画の見直しに向けて幅広い町民の意見を 5 年間（2011 ～ 2015 年）にわたり蓄積すること

一方、研究としての目的は、小規模自治体におけるミニ・パブリックスの概念に基づく無作為抽出市民による市民参加方式「市民討議会」の継続的開催が、これまでは困難とされてきた民主主義のトリレンマ 3 原則（「熟議」、「政治的平等」、「大衆の政治参加」）^{※-1} 全てを満たしうる可能性を理論的に指摘するだけでなく、実際の事例で実証することにあつた[図-1]。



【図-1】民主主義のトリレンマ克服のイメージ

市民参加におけるミニ・パブリックス（無作為抽出手続き）の複数年継続開催の意義や効果を、市民の自治意識・参加意識と行動の点において明らかにすることが本研究全体の目的である。

第2節 研究方法

本報告は、「無作為抽出と熟議との反復が市民のまちづくり参加への意識と行動に及ぼす効果の研究（科研申請テーマ）」の一部をなすものであり、研究全体として明らかにすべき調査項目は、以下の 4 点である。

- 1) 参加者の人口統計学的属性の分布や町民討議会議に対する評価の分析
- 2) 参加者の討議内容の分析
- 3) 参加者の協働のまちづくりへの意識・行動や関連する心理要因(エンパワーメント、コミュニティへの帰属意識など)の変化の分析
- 4) 未参加者の町民討議会議に対する認知度の変化と町政に対する参加意識・行動の変容の分析

今回の報告では、2)参加者の討議内容分析として、特にミニ・パブリックスにおけるマイクロマクロ媒介問題を考える上で重要だと思われる参加者の意見変容を引き起こす討議プロセスについて考察する。町民討議会議では、マイクロ（個人）とマクロ（ミニ・パブリックス全体）の間に小さな数人単位のグループを熟議空間として設定している。本研究では、このグループによる熟議空間をマイクロマクロの媒介装置と位置づけ、個人とグループとミニ・パブリックス全体の場の意見形成を組み合わせながら個人の意見変容が発生する機会をどのように組み込むことができるかに着目し、討議プロセスのマイクロマクロ媒介効果を討議の記録から分析する。今回の町民討議会議（ミニ・パブリックス）では、個人の意見変容により合意形成が実現される場面と、個人の意見のそれぞれの違い（相対的な位置づけ）が明らかになるという二つの場面でマイクロマクロ媒介効果を観察することができる。言い換えると同じ意見が形成され一つの結論を選択するような場合と優先順位を確認してそれぞれの選択の違いを共有するような場合である。

第3節 町民討議会議の全体構成と概要

今回分析の対象としている豊山町町民討議会議の全体構成を[表－1]に整理する。町民討議会議は2011年に第1回が開催され、その後毎年2日間ずつ2015年まで5年間にわたり継続的に実施された。町民討議会議の開催に当たっては、住民基本台帳を基に毎年2,000名（3回目までは18歳以上、4回目以降は15歳以上）を無作為抽出し、町長名で招待状を直接本人に送付した。応募者が50名を超えた場合は抽選によって参加者を選択し、実際には毎回40名ほどの参加者を得ている。

[表－1] 豊山町町民討議会議の全体構成

年度	日程	参加者数	テーマ
第1回 (2011)	10月30日(日) 11月6日(日)	41名	・重点戦略の中で、住民の理解と協力が必要なもの ・総合計画の中の重点事業以外の重要な事業を提案
第2回 (2012)	10月14日(日) 11月4日(日)	30名	・地域公共交通を考える ・豊山町の防災問題を考える
第3回 (2013)	9月29日(日) 10月5日(土)	42名	・豊山町の防犯を考える ・地域のリーダーを考える
第4回 (2014)	8月2日(土) 8月3日(日)	41名	・豊山町の総合計画の見直しの論点整理 ・後期基本計画に盛り込む内容の検討
第5回 (2015)	8月1日(土) 8月2日(日)	46名	全体テーマ：地域で子どもを生き活きと育てられるまち ・豊山町の魅力発信・PR戦略について考える ・総合戦略のアクションプランを考える

※1：開催時間は毎回午前10時～午後4時30分

※2：「参加者数」欄は2日間通して参加した人の人数

※3：2012年度は、当初予定の第1日目（9月30日）が台風の影響で開催できなかったため、10月14日の会議の際に複数の候補日を挙げて参加者の都合を尋ねた上で11月4日に決定して

実施した。参加者の都合も考慮したとはいえ、急な日程の追加のため、参加できない人も多かった。

第4節 討議プロセス分析のための4つの視点

町民討議会全体全体の討議プロセスの中から以下の4つの視点に着目し、典型的な討議プロセスのいくつかの討議内容について考察する。

1. 多段階意見形成プロセスによる合意形成効果

ここでいう多段階意見形成プロセスの意味は、個人による選択とグループ内の熟議の結果としての選択、その結果を考慮して個人で選び直した選択の組み合わせによる全体の意見形成プロセスのことである。

2. グループ構成メンバー交換システムによる意見変容効果

グループ構成メンバー交換システムと名付けたのは、具体的にはグループメンバーの席替えのことである。くじ引きによる場合と参加者それぞれの自由な移動の場合がある。(市民討議会の場合はくじ引きが原則、ワールド・カフェの場合は自由に移動)

3. 公共性の再発見による意見変容効果

当初は自分自身のことを中心に考えた選択をしていたのに対して、意識的に自分以外の立場を考慮に入れて修正された選択結果のこと。

4. 物語性の導入による意見変容効果

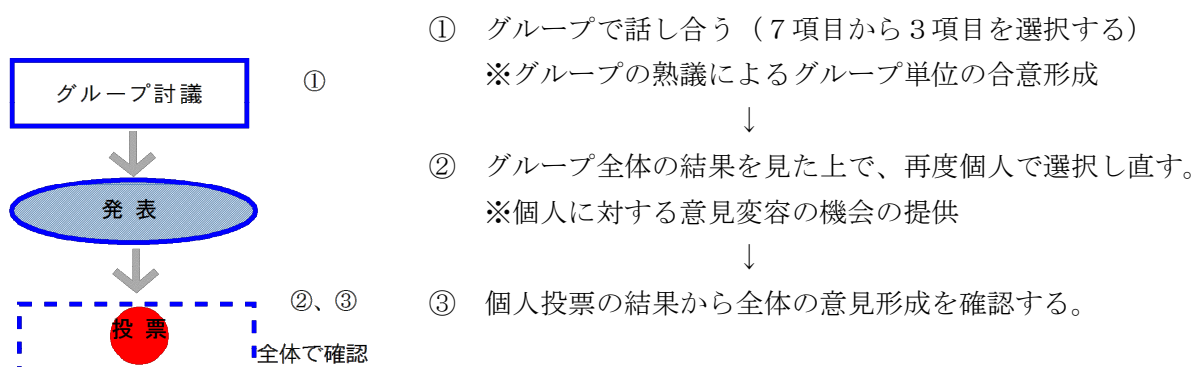
理性的な理由や根拠を基にした討議結果に対して、レトリックやメタファー、ロールプレイ、映像イメージ、物語性を導入したコミュニケーションプログラムによって引き出される意見形成のこと。

第2章 討議プロセスの事例分析

第1節 多段階意見形成プロセスによる合意形成効果

第1項 多段階意見形成プロセスによる合意形成効果 [ケース I]

a. 【熟議のプロセス：第1回 1日目 第3ラウンド】



[図-2] 熟議プロセスの構成図 I

b. 【具体的な熟議の内容】：総合計画の重点戦略の中で、住民の理解と協力が必要なものを考える

具体的な討議内容は、総合計画で位置づけられた7項目の重点戦略についてグループで討議し、優先順位が高い3項目を選択して結果を発表し[表-2]、再度個人で3項目を選択するというプロセスである[表-3]。

[表-2] グループで選んだ項目 ※△は4つ目の項目として選ばれたもの

重点戦略	グループ番号									選択数の合計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
a) 地域の絆や交流のさらなる醸成	○	○	○	○	○		○	△		6.5
b) 子育てしやすい環境づくり		○		○	○		○	○		5
c) 空港を活用した交流の促進						○	○			2
d) 航空宇宙産業をはじめとした産業の強化・育成	○							○	○	3
e) コンパクトにまとまった魅力ある定住環境の創造		○	○							2
f) タウンバスを中心とした公共交通の充実	○	△	○	○	○	○		○	○	7.5
g) 庁内各部門の連携や広域連携の強化										0

c. 【熟議結果の考察】

結果としてグループの選択結果と個人の選択結果の優先順位は一致し、重点戦略の優先順位の高い項目は、①タウンバスを中心とした公共交通の充実、②地域の絆や交流のさらなる醸成、③子育てしやすい環境づくり、であることが全体として意見形成された。グループの選択結果の集計と個人の選択結果の集計の優先順位が一致することによって単純な多数決ではない納得のいく意見形成が行われている。※-2この討議プロセスには、グループによる熟議の場と投票による個人の意見変容の表明機会を組み込んでいる。そのことによって結果は全体で共有され、受容的ではあるがミニ・パブリック全体の場の合意形成はしやすくなったと考えられる。この場合の討議プロセスでは、個人の集計結果とグループの集計結果の間に違いが生じなかったことが逆に結果に対する信頼感に結びついたといえる。

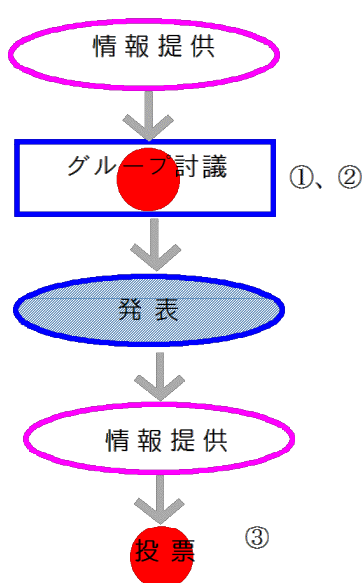
[表-3] 個人アンケートの結果

重点戦略	得票数
a) 地域の絆や交流のさらなる醸成	24
b) 子育てしやすい環境づくり	21
c) 空港を活用した交流の促進	15
d) 航空宇宙産業をはじめとした産業の強化・育成	16
e) コンパクトにまとまった魅力ある定住環境の創造	11
f) タウンバスを中心とした公共交通の充実	32
g) 庁内各部門の連携や広域連携の強化	5

※上位3項目に網掛け

第2項 多段階意見形成プロセスによる合意形成効果 [ケースⅡ]

a. 【熟議のプロセス：第2回 1日目 第2ラウンド】



- ① まずは個人の意思表示をする。(4項目から1項目を選択する)
※個人による意見形成
- ② グループ内の個人の選択結果を見た上でグループ内で熟議しグループの意見形成をする。
※個人意見の単純な集計ではないグループの意見形成に期待。熟議による意見変容の結果としてのグループの意見形成
- ③ グループの選択結果に対して専門家より情報提供を受けた上で個人で改善提案に対して投票し、全体で結果を共有。
※ここでの投票はサービスタイプそのものではなく、サービスの改善提案に対する投票とした。

〔図－3〕 熟議プロセスの構成図Ⅱ

b. 【具体的な熟議の内容】：地域公共交通を考える

豊山町のコミュニティバスのサービス水準を検討するに当たって、隣接する名古屋市の公共交通のサービス水準との比較から4つのレベルを設定し、個人の選択の集計(①)の後、グループの選択の集計を行った。最後に豊山町のコミュニティバスのサービス改善をグループで提案し、専門家からの情報提供の後に個人で3項目を選択(③)した。

c. 【熟議結果の考察】

個人の選択(①)では、BタイプとCタイプが同数となったが、グループの熟議の結果は、Bタイプを選択したグループがCタイプの2倍となっている。〔表－5〕

これは熟議の過程で個人の意見変容が起きた結果であると推測できる。この結果を見て全体の意見はBタイプへの関心の方がCタイプより強いという合意が形成された。(※数字が整数になっていないのは、個人の選択でBとCの間を選択した人がいたことによる。)このプロセスでは単純な多数決に比較して、グループレベルの熟議により個人の意見変容の結果がグループの選択結果

〔表－4〕 豊山町で想定される4つの公共交通のサービスレベル

Aタイプ	名古屋市の地域公共交通のサービス以上のレベル (1人あたりのコスト、利用料金、サービスレベル)
Bタイプ	名古屋市の地域公共交通のサービスレベル (1人あたりのコスト、利用料金、サービスレベル)
Cタイプ	現状の豊山町の地域公共交通のサービスレベル (1人あたりのコスト、利用料金、サービスレベル)
Dタイプ	とよやまタウンバスがない地域公共交通のサービスレベル (1人あたりのコスト、利用料金、サービスレベル)

〔表－5〕 タイプ選択の結果

	個人の選択	グループの選択
Aタイプ	0	0
Bタイプ	23.5*	6
Cタイプ	23.5*	3
Dタイプ	0	0

に反映されたことで、より説得力のある合意形成プロセスとなったと考えられる。^{注-2}

改善提案の結果は、運行本数と運行ルート、料金に関する項目がそれぞれ多くを占めている。他に多くの町民に利用を広げるためのPRやバス停の工夫、広告による収入の確保などの提案内容が広がっている点にも着目したい。

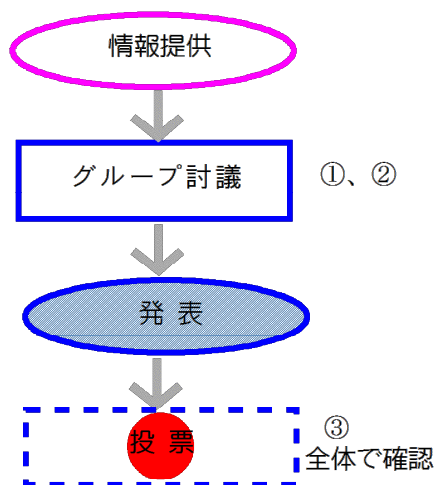
事前のアンケートによれば、実際にとよやまタウンバスの利用経験が数回程度までの利用経験が浅い参加者が4分の3を占めていたことがわかっている。この事実を前提として、討議プロセスに入る以前のプログラムにおいて、事前にタウンバスに試乗してもらった経験から「みんなに伝えたい良い点」と「利用者として気になった点」を洗い出すグループ討議を行っている。このプログラム設計により参加者は単なる利用者としての自分自身の視点に加えて、タウンバスを日常的には利用しない町民を含む多様な視点から改善提案を選択した(③)と考えることができるのではないだろうか。

[表-6] 改善提案に対する個人の投票結果 ※シール投票の結果：1人3票

グループの提案項目1. 本数増加等サービス向上	票数6	同一	同種
1. サービス向上、雨の日の増便、直通便	7	16	34
2. 本数増加等サービス向上	6		
3. 朝夕の運行数を増便し、タウンバスの利便性をPRする	3		
4. バスの利用状況により運行を見直してもらいたい	7	13	
5. 早い改善サイクル、1回/3年…現状に合う様に	6		
6. 運行時間の見直しによる、経費削減する	5	5	
7. 北コースの終点を市役所から小牧駅に変更	12	32	32
8. 北、又は南ルートのどちらかエアポートウォークにも止めてほしい	6		
9. 現状ルートの見直し北、南ルートを、北部市場で接続「乗換」	5		
10. 南コースに西部医療センター追加	5		
11. 北ルートのサービス向上	4		
12. 通学割引・敬老割引	8	15	27
13. 定期券の発行、昼間料金	7		
14. 町内外で料金の差をつける	10	10	
15. わかりやすい料金体系	2	2	
16. タウンバスの良さをPRする	3	5	21
17. 町民一人の負担額を増さずタウンバスのPR	2		
18. 町外の利用を図る	2	2	
19. 行政の支援者と利用者もある程度増やして行う	7	7	
20. 町内のお知らせ告知などで地域交流を図る	7	7	
21. 停留場のインフラ整備	11	13	13
22. バス停の近くに駐輪場を設置してもらいたい	2		
23. デコレーションや車内広告等で、収入を確保	5	11	11
24. 広告を募る	3		
25. 通勤手当・広告収入の導入	2		
26. 民間の広告費を利用する	1		
27. 時刻表の簡略化	0	0	0

第3項 多段階意見形成プロセスによる合意形成効果 [ケースⅢ]

a. 【熟議のプロセス：第2回 2日目 第5ラウンド】



- ① まずは個人の意見の洗い出しを行う。
※考えられる意見をすべて出す。

↓

- ② グループ内で個人が考えた意見項目を見た上で熟議し、グループの意見形成をする。
※上位3つの意見をグループの選択結果として意見形成する。

↓

- ③ それぞれのグループの選択結果を理解し、全体の中から個人で選択する。(5項目を選択)
※意見変容の機会を提供し、意見変容の結果を更に個人で選択し、全体の意見形成を確認する。

[図-4] 熟議プロセスの構成図Ⅲ

b. 【具体的な熟議の内容】：豊山町の防災問題を考える

・豊山町の自主防災組織の現状について情報提供を受けた後に、減災対策として「個人でできること（自助）」、「コミュニティにできること（共助）」、「行政にしかできないこと（公助）」を個人で洗い出し、その中から共助の部分についてグループで3つを選択し、さらに発表の後個人で5項目を選択した。[表-7]は、個人の選択結果である。

[表-7] コミュニティでできる減災対策に対する個人の投票結果

※シール投票の結果：1人5票

グループの提案項目	票数	同一	同種
1. 全地区に地区防災倉庫を作り、充実させる	14		73
2. 炊き出しの為の移動キッチン、部落の人数部分の保存食、水などを用意する	8	22	
3. 消火栓や消化器の確認	11		
4. 消火栓の使用法の指導を小地区で実施。ホースも	8	19	
5. 長期空家の対策（火災防犯）	14	14	
6. 独居老人宅の家具固定をシルバー人材センターを活用できるように	10	10	
7. 避難（防災）訓練の定期開催（年複数回）、PR（避難経路知っていますか？）	8	8	
8. 隣近所と一声、連帯感を普段から心掛ける	11		61
9. 日頃より隣り近所と声をかけできるよう、自治会に入りやすくし、活動で地道に交流を深める	8	24	
10. 声かけ運動を実施する	5		
11. 独居老人とか障害者の把握？（近所付き合いが大事）	9	17	
12. 高齢者のみ家庭の把握	8		
13. 地域の緊急連絡体制の周知	10	10	
14. 自治会組織を小ブロックにして防災意識の情報を集める	6	6	

15. コミュニティに依る防災マップ作り	4	4	
16. 自主防災会の充実	6	16	16
17. 自主防災会未設置地区を無くしてほしい	6		
18. 自主防災組織の義務化	4		

c. 【熟議結果の考察】

個人で選択し、グループで意見形成し、更に個人で優先順位を選択する。全体としての結果をグループピングすることでミニ・パブリックスの場合全体としての意見形成を確認している。結果として、備蓄に関すること、消火栓・消火器関連、高齢者の把握、自主防災組織の充実などに対する関心の高さがミニ・パブリックスの場合全体として共有化された。ここに見られるように適切で妥当性の高い提案に自然に収斂していく様はこのプロセスが持つマイクロ・マクロ媒介効果と考えることができる。最後に投票した項目はあらかじめ準備されたものではなく、すべてははじめの段階でそれぞれ参加者自身が出し合っていることもマイクロ・マクロ媒介効果を高めているのではないかと考えられる。

第4項 多段階意見形成プロセスによる合意形成効果 [ケースⅣ]

+グループ構成メンバー交換システムによる意見変容効果

a. 【熟議のプロセス：第4回 1日目 第1ラウンド、第2ラウンド、第3ラウンド】

- ① まずは個人の意思表示をする。(23項目から3項目を選択する)

※個人の意見形成

↓

- ② グループ内の個人の選択結果を見た上でグループ内で熟議し、グループとしての意見形成をする。
(3項目を選択)

↓ [グループの席替え]

- ③ それぞれのグループの選択結果を理解し、新しいグループで7項目を選択した上で項目のそれぞれの内容に対する評価を通して理解の共有化を図る。

※この部分の熟議は、それぞれの考え方の相違を共有しながらグループで意見形成するプロセスの中で個人の意見変容の機会を提供することになっている。

↓

- ④ 全体で各グループの検討結果を確認し、全体としての意見形成を行う。

↓ [グループの席替え]

- ⑤ それまでの結果全体を参考に、再度グループで熟議し、マニフェストとして5項目をグループで合意形成する。

※この熟議においては、マニフェストという設定で、他の人の立場を選択の前提として「公的志向の倫理的選好」^{※-9}を意識した意見変容の機会を提供している。

↓

- ⑥ 最後にグループの結果について個人で投票し、選択結果を全体で共有する。

b. 【具体的な熟議の内容】：豊山町の総合計画の見直しの論点を整理する

この討議プロセスは、第1ラウンドから第3ラウンドまで関係づけられたテーマとして組み立てられている。第1ラウンドでは、総合計画の中の重点課題（9施策）と検討課題（14施策）の説明の後、両方を合わせた23施策の中から個人で3施策を選択し自己紹介をした。その後グループでの熟議を通して話し合いたい3つの項目を選択し、全体場で発表している。

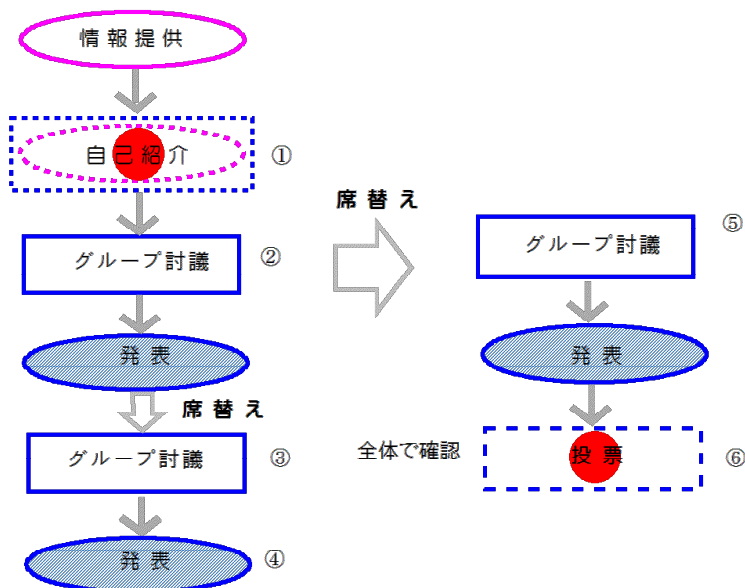
第2ラウンドでは、グループの席替えをして関心の高い7つの施策をグループで選択し、協働の観点からの評価を行い内容を共有化した。

さらに第3ラウンドでは、再び席替えを行った後にそれまでの討議結果を前提にして、『もし、私が町長だったら・・・』という想定で5項目のマニフェストを提案してもらった。このマニフェストという設定には公共的視点にたって考えてもらう意図がある。

c. 【熟議結果の考察】

この討議プロセスでは、「多段階意見形成プロセスによる合意形成効果」と「グループ構成メンバー交換システムによる意見変容効果」を組み合わせている。個人の選択で票が集中したのは、1)公共交通網の充実、6)犯罪のない安全なまちづくり、2)生活道路や歩道の整備、が上位3項目である。席替え後の第2ラウンドのグループ討議においても、9グループ中7グループが7項目の中に第1ラウンドで上位であった3項目を選択している。事例として〔表-9〕に上げた【グループ2】もそうした事例の一つである。

グループのメンバーが替わることによって個人の意見変容はしやすくなる傾向がある事に加えて、それぞれのグループ



〔図-5〕 熟議プロセスの構成図Ⅳ

〔表-8〕 個人のシール投票の結果

重点課題と検討課題23施策	シール合計
1) 公共交通網の充実	29
2) 生活道路や歩道の整備	11
3) 安定した雇用の確保	2
4) 路上にゴミのない美しいまちづくり	5
5) 勤労者福祉、働きやすい環境づくり	3
6) 犯罪のない安全なまちづくり	18
7) 交通事故のない安全なまちづくり	7
8) 土地利用の適正な規制・誘導	5
9) 幹線道路の整備	4
10) 景観に配慮した街並み形成や市街地整備	5
11) 観光の振興・町の魅力の発信	9
12) 農業の振興	1
13) 近隣騒音など生活型公害対策の充実	2
14) 企業や大学などと連携したまちづくりの推進	4
15) 商業の振興、魅力ある商業地域の形成	2
16) 消費生活に関する情報提供	7
17) 不法投棄の防止	3
18) 行政情報の提供や住民意見の把握	7
19) 新しい産業の誘致・創出	2
20) 効率的で適正な行政運営	0
21) とよまチャンネルの運営	1
22) 国際交流や多文化共生の推進	1
23) 関係自治体などとの連携	2
24) その他	2

※上位3項目に網掛け

の熟議の内容が全体に攪拌されることで意見が共有されやすくなる傾向があることが指摘されている。

注-4 最後に再度の席替えの後、第3ラウンドでグループでまとめたマニフェストに対して1人2票のシール投票で共感の得られた内容を個人の選択により明確にした。結果は、プレゼンテーションの魅力による効果があったとはいえ、【グループ7】のマニフェスト提案が20票で最も多くの支持を集めた。マニフェストをテーマとしたのは、多くの豊山町民から支持の得られる項目を考えてもらう（公的志向の倫理的選好）ことを意識した仕掛けである。マニフェストの内容を他グループと比較すると、より具体的かつ現実的な項目の提案となっていることが特徴的である。この一連の討議プロセスは、熟議により個人の意見がより多様な意見と混ざり合いながらより説得力のある意見を育てていく可能性を示しているように思われる。

[表-9] 【グループ2】のまとめの事例

協働のスタイル	行政						
	民間				民間		
検討テーマ	●公共交通網の充実	●生活道路や歩道の整備	●ネット環境の充実・利用	●老人福祉について	●観光の振興・町の魅力の発信	●犯罪のない安全なまちづくり	●路上にごみのない美しいまちづくり
a) 行政の役割	・新しく電車やバスをつくる。	・自転車用の道を作る。	・ケーブルテレビを活用して配信プログラムの作成	・高齢者の日常生活の質の確保 ・医療等の負担軽減	・町特有の伝統をPRする(祭りなど)	・交番の機能を充実する。 ・人が通らないような道に街灯をつけて安心に通れるようにする。	・ポイ捨て禁止のポスターを作って貼っておく。 ・科料などの罰をあてる。
b) コミュニティの役割				・季節ごとに仕事を行い楽しみを作る。	・学校の学活の時間などで自分の町の魅力を探す。	・色々な所に防犯カメラを設置する。	・雑草を取る。ごみと同じ。
b) 企業の役割	・交通機関を増やすようなアイデアをだす。 Exバス、電車	・歩道の段差をなくしたりして、舗装をよくする。	・Wi-Fi環境がある店を増やす。		・イチローが有名だからグッズや食べ物を作って魅力を発信する。		
d) 住民個人の役割	・公共交通網を利用する。	・狭い道や街灯のない場所を報告する。		・近所の高齢者の見守り。	・町の魅力を見つける。	・近隣の方とのコミュニケーションを大切にし、犯罪などの被害にあっても早く対応する。	・個人個人で家の近所のごみを拾う。

[表-10] 【グループ7】のマニフェストの事例

5つのマニフェスト	【グループ 7】票数 20
1. 公共交通網の充実 2. 小・中学校のリフォーム（トイレ、教室、クーラー） 3. 老人をサポートする町 4. 避難経路を示す看板の設置 5. 雑草のない木かげの道の整備	



第2節 グループ構成メンバー交換システムによる意見変容効果を検証する

a. 【熟議のプロセス：第5回 1日目、2日目 第1、第2、第3、第4、第5ラウンド】

① 1日目は、3つのテーマ（「科学・技術で元気になる子ども達」、「スポーツで元気になる子ども達」、「『ゆるキャラ® for チルドレン 2015』で元気になる子ども達」）に対して、それぞれ情報提供し、グループごとに3つのアイデアをまとめてもらい発表した。個人で投票するプロセスを席替えをしながら繰り返した。

↓

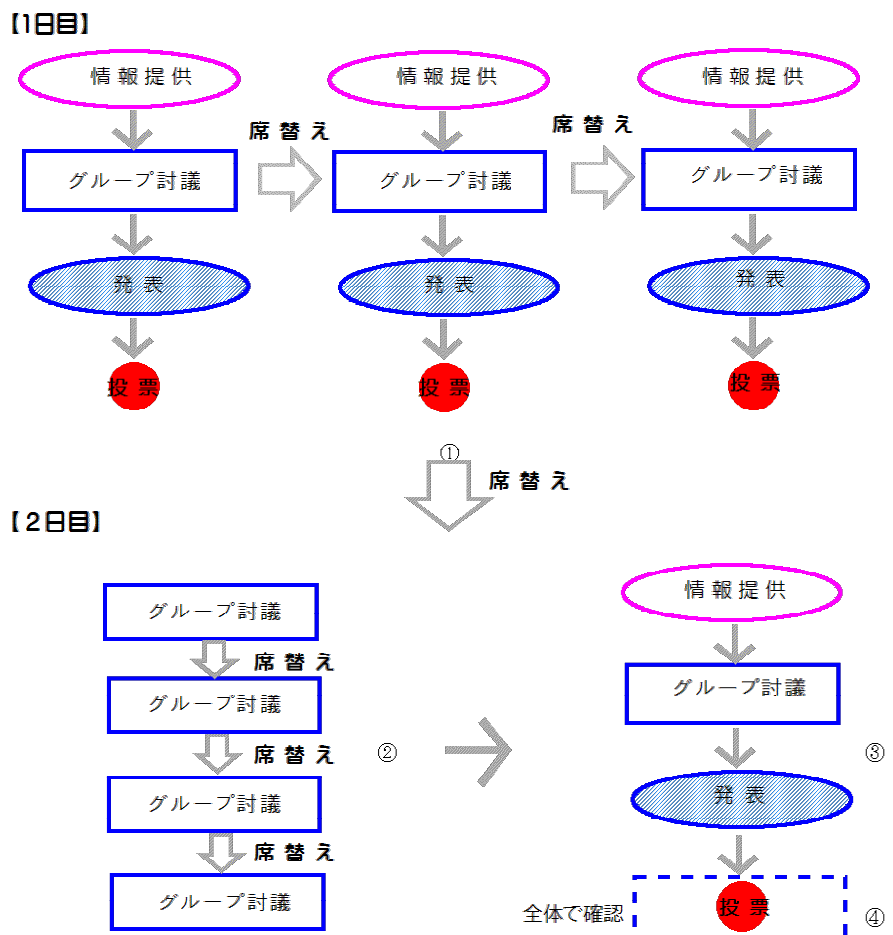
② 2日目は、前日に提案された内容を前提に、3つのテーマのうち関心のあるテーマを各自選択してグループを再構成し、ワールド・カフェ方式でグループメンバーを攪拌しながら（3回）熟議を繰り返した。最後に具体的なプロジェクトを2日目の最初のグループメンバーに戻りまとめた。

↓

③ 新たな情報提供を受けた上で、同じグループメンバーでプロジェクトのアクションプランを熟議の上作成し、結果を全体場で発表した。

↓

④ 最後に個人でそれぞれのプロジェクトを選択して投票し、全体場で確認した。



〔図－6〕 熟議プロセスの構成図V

b. 【具体的な熟議の内容】：地域で子どもを生き活きと育てられるまち豊山町（大テーマ）

第1日目の中テーマは「豊山町の魅力発信・PR戦略について考える」、2日目は「豊山町の地方版総合戦略のアクションプランを考える」としているが、2日間を通した討議プロセスとしてグループ構成メンバー交換システムを検証する。実際には、具体的に3つの話題（小テーマ）、1)科学・技術で元気になる子ども達、2)スポーツで元気になる子ども達、3)「ゆるキャラ® for チルドレン 2015」で元気になる子ども達が設定されたが、ここでは1)科学・技術で元気になる子ども達の内容を事例として紹介する。

第1日目の討議では、それぞれの話題に対して情報提供を受けた後にグループ毎に3つのプロジェクトを提案し、個人で5つのプロジェクトを選択した。[表-11]

第2日目の討議では、関心のある話題ごとにグループを再構成した。その中で【2グループ】は、前日の個人投票で最も票を集めたミュージアム構想を選択した。その後ワールド・カフェ方式によりテーマを横断してメンバーチェンジを行い問題点や課題をそれぞれが指摘（第2ラウンド）した。次にその

解決策と新たな魅力づくりの提案（第3ラウンド）を行い、元のメンバーに戻ってプロジェクト名の修正（第4ラウンド）をグループで行った。

[表-12]

最後に同じメンバーでプロジェクト実現に向けた5年間のアクションプランを作成して発表。結果に対して個人で3つのプロジェクトを選択し投票した。結果として【2グループ】の提案は、1)科学・技術で元気になる子ども達の提案の中では最も多い24票を獲得している。

[表-13]

[表-11] 科学・技術で元気になる子ども達の討議結果

提案プロジェクトの項目[個別の票数]	類似票数
1) 本格的な科学館[10] 2) 航空館Boonの活用(ボランティアの方※OBの方、専門の方の解説)[9] 3) 町内の施設・工場が連携した「航空博物館」の形成[8] 4) キzzaニア豊山[5] 5) 新しい施設(既存のものを含め)その利用目的を分かりやすくする[2]	34
1) 豊山町の園、小、中学校で、校外学習として、見学、体験をさせてもらう[7] 2) 三菱と連携して、工場見学をPRする。[6] 3) 中学校の社会見学でMRJ試乗[6] 4) 見学申し込みのハードルを下げる。申込みのきっかけと媒体を増やす[4] 5) 工場見学(実際にプラモデルなどを使用し、飛行機ができるまでを学ぶ)[2]	25
1) MRJ教室(見学コーナー、プログラミング教室)[8] 2) 航空機の専門学校(高・大)を新設する。[6] 3) 航空教室[3] 4) 子ども対象の航空に関する体験ツアーなどの催し[3]	20
1) サイエンスナーレエアミュージアム(野外)[7] 2) 子ども達がいろいろな体験ができるイベントを一日会場を設けて行う。[6] 3) 紙ヒコーキ等の制作体験教室。祭りなどでの大会[6]	19
1) 小中学校に講師をよんで、航空に興味を持ってもらう[4] 2) 学校での特別授業(三菱の方を招いての講義)[4] 3) 小学校の授業で飛行機の飛ぶ仕組み等を教える。[3] 4) (ハードではなく)ヒューマンの面から関心を持てるようにする。[3] 5) 小・中学校での授業[2] 6) 航空機などをテーマにした高次的・発展的な内容の出前授業[1]	17
1) 子ども達が気軽に豊山へ来られる体制(交通)をつくる。	13
1) 豊山チャンネルで定期的にMRJの情報を流してもらう。	5
1) グッズ・PR(MRJとのコラボ商品[プラモ、ぬいぐるみ、MRJまんじゅう])	4
1) 3世代で楽しめる町(飛行機の見える町)	4

c. 【熟議結果の考察】

このプロセスでも、「多段階意見形成プロセス」と「グループ構成メンバー交換システム」を組み合わせているが、席替えの機会をより頻繁に採り入れ、リレー方式による意見形成とでもいえる討議プロセスを実現している。個人の選択と全体の意見形成の間にグループの熟議の場を設定するのがマイクロ・マクロ媒介問題に対する町民討議会議におけるミニ・パブリックスの方法論だが、グループ討議の部分にメンバーチェンジの仕掛けを意識的に組み込むことで個人の意見変容を活性化しつつ、グループ自体の意見変容も引き出し、ミニ・パブリックス全体の場の合意形成を創発するプログラムを作ることが可能であるように思われる。

【表－12】 【2グループ】のワールド・カフェのまとめ

最初の題名	サイエンスナーレ エア ミュージアム
【第1ラウンド】	<ul style="list-style-type: none"> ・実現性が高く、オリンピックのような（4年に一度）イメージで町全体が活気に溢れると思ったから。空いている土地を利用できると思う。 ・町内を広く巻き込むことができる。 ・町全体を利用することで豊山町のPRになる。楽しそう。 ・大きな施設が不要なので費用がかからない。 ・お金がかからないようにする。 ・実現可能性
【第2ラウンド】	<ul style="list-style-type: none"> ・町内、町外へのアピールの仕方。テレビ局にアピール ・目玉になるものを一つ考える。 ・防犯 ・交通の確保、駐車場 ・情報の確保 ・名前がわかりづらい
【第3ラウンド】	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は小規模で ・シャトルバスの運行（無料） ・大学との協力 ・三菱の協力 ・ボランティアのパトロール ・レンタサイクル
【第4ラウンド】	航空科学の祭典『とよや丸ごとミュージアム』

【表－13】 【2グループ】のアクションプランの提案

プロジェクト名：とよや丸ごとミュージアム『航空科学の祭典』		
票数：24	町民のアクションプラン	役所の役割
平成27年度	・トリエンナーレ等の研修	・実行委員会たち上げ、企画の広報
平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会、参加者の誘致、募集 ・日時の設定 ・三菱の委員会参加 	
平成29年度	・場所、企画の選定	
平成30年度	・開催（シルバーウィーク）	
平成31年度	・次回への準備	
成果を測る指標の提案	・2週間で2万人の目標	

第3節 公共性の再発見による意見変容効果

a. 【熟議のプロセス：第1回 1日目 第1ラウンド、第6ラウンド】

b. 【具体的な熟議の内容】：30年後の豊山町

第1ラウンドでは、話し合いの最初の時点でいきなり30年後の豊山町に実現していて欲しいことを問いかけてグループで優先順位の高い3項目を選択した。[表-14] これに対して第6ラウンドは、何度かの討議の後に市民との協働を考えて10年後の豊山町に重要なことという問いかけをしている。何回かのグループによる熟議と、個人ではなく行政と市民の協働という視点の強調によって、第1ラウンドに比較してより公共的な視点から選択が行われる条件を設定した熟議とした。[表-15] 具体的な討議結果から両者の結果の違いを検証する。

[表-14] 30年後に是非実現していて欲しい目標 ※シール投票の結果：一人5票

提案項目	単独	同一	同種
1. 交通機関の充実	6	20	47
2. 交通機関の充実	5		
3. 交通機関の充実（地下鉄の乗り入れ）	4		
4. インフラ整備	3		
5. 公共交通の整備	2		
6. 交通機関の整備と道路整備	10	17	
7. 交通・道路整備	7		
8. 車・自転車・歩道の全分離	10	10	
9. 高齢者に配慮された街	9	9	27
10. 老人や子供が安心して暮らせる町づくり	7	13	
11. 子供・高齢者が安心して暮らせる（田んぼ、広場、公民館の活用）	6		
12. 育児環境の整った町づくり	5	5	
13. 空港の活用	11	11	25
14. 企業誘地（空き地利用）	8	8	
15. 産業の活性化	6	6	
16. 総合病院の建設	20	20	20
17. 土地の有効活用（温泉・レジャー施設）	10	16	16
18. 総合エリア（商業、福祉、医療、防災が充実）	6		
19. 身の丈にあった街づくり	12	12	12
20. 災害時の避難場所の確保（均等化など）	10	10	10
21. 町内コミュニケーションの充実した町	10	10	10
22. スポーツ振興	9	9	9
23. 伝統技能伝授	8	8	8
24. 戦没者の慰霊が町として必要	8	8	8
25. 自給自足（農業の再生）	7	7	7
26. 教育環境整備	5	5	5
27. 市に昇格する	3	3	3

[表-15] グループで5つを選択し、その理由を記述

事業内容	理由
1. とよやまタウンバス	・バスは必要
2. タウンバスの活性	・町内フリー乗下車
3. とよやまタウンバスの運行 地域公共交通活性化計画	・高齢者の足として
4. タウンバスを中心とした公共交通の 充実	・自家用車から公共交通への自発的な転換
5. バス停整備によるタウンバス利用者 の促進	・豊山町の交通のウィークポイントの克服！ ・雨の日に屋根がついていたら、もっと使いやすくなり、利用者も増えるのでは？
6. バス停の整備と駐輪場の設置	・官に指導していただき、民が利用を増やし、住民の定住率UPを図る ・町民以外の人も利用しやすくするためにも早急に屋根、駐輪場が必要である ・タウンバスの存続・発展のためより、利用しやすくする。町民もそのために積極的に利用する
7. インフラ整備事業 (タウンバス停、駐輪場)	・タウンバスの利用率をあげるため ・駐輪場の確保 ・タウンバス事業と合わせて駐輪場整備
8. タウンバス時刻表の配布、防災マップ等の各家庭への配布	・乗り継ぎや待ち時間の抵抗感をなくし、公共交通の利便性を高める
1. 空港を活用	・豊山町の存在をアピール！
2. 旧空港用地を活用した地域振興	・雇用の創出 ・税収の確保
3. 空港利用のアピール	・町の活性化 ・航路の増便
4. 空港をもっとPR	・住民がもっと意義を高めて、口コミを使ってPRしよう！ ・小牧空港と呼ばれないために産業の誘致や声をあげていくべきだと思う ・空港が存在している市町村は少ないため、積極的にPRすることで地域活性化へつながるのでは ・町のシンボル空港のPRは町の活性化にもつながる
5. 空港名に「豊山」	・豊山町の名前PR
6. 豊山の名をつけた空港名に空港の アピールをする	・町の特徴を生かすため ・空港アピール ・豊山空港 ・空港のアピール必要！
1. リーダー育成事業	町民参加意識向上 世代交代がスムーズにできるように ・リーダー育成（引きつぎの時期がきている） ・リーダー育成 ・町民の地域に於ける参加意識（町の行事など）
2. リーダー育成事業	・イベント等の企画実行に必要なノウハウを持つ人が少ないから
3. リーダー育成	・地域にきめ細かいサービスをするために官民協力が不可欠 ・リーダーをする環境、やって良かったと思う育成が必要、バックアップも大切だと思う ・新たなリーダーを発掘するためには、地域一体となりリーダー育成に取り組み、協力することが不可欠である ・町の成長には町民の成長なしではできない。そのため、官民に関わ

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ならず人材の育成をすべき。費用対効果は考えず、数十年以上の長い目で見ると見るべき
4. リーダー育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーのノウハウ
5. コミュニティ組織育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のような、町民参加の会議を充実させる。コミュニケーションの場を広げることができる ・ 討議会の充実（話し合い、コミュニケーション）
6. 町役場、各部門の連携と活性化 (若手職員の育成)	
1. 防犯、美化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低予算ですぐとりかかれる ・ 防犯、シルバーの方や時間的に余裕のある方がそれぞれの地域で巡回（低予算） ・ すぐに実行できる ・ 緑化事業、中央分離帯、10年以内、予算・活用場所があるのですぐに行える
2. 豊山町内の美化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誇りがもてる町にして、各々の意識を高める ・ 町内の美化防犯
3. 緑化事業の推進、美しい町づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の緑、美化、季節ごとにプランターなどでかざる。
4. 校庭、園庭の芝生化 緑化事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防じん効果
1. エネルギーの自給自足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資源の長期利用
2. エネルギー自給自足	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコ、メガソーラー、広域土地
3. エネルギー自給自足 (ソーラー等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 省エネルギー意識の普及啓発
1. 春日井稲沢線	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商店街通り（県営名古屋空港）
2. 道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋滞の緩和（渋滞が多い） ・ 道路が狭い ・ 昔からの細い道が残っている
3. 人の安全を優先にした道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人と自転車・車が円滑に歩き、走れる道路。健康のために町では歩くようにと進めているが、気分よく歩け、走れる道路がほしい ・ 緑が必要とも言うが、雑草・ゴミがよく落ちているが、その清掃が必要ではないでしょうか？
1. 災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水害対策が不十分 ・ 水はけが悪い ・ ため池がない（大山川）
2. 災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広域土地
3. 災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街頭消火施設などの消防設備の整備
1. 訪問医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 足がない老人のため
2. 訪問医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院+町医院とつながり
3. 広域医療圏業務負担事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療体制の充実
1. 航空産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 航空（宇宙）産業は、町の産業の核にする（なる）べき、雇用の際にも官民積極的にすべき ・ 産業の活性化→住民の増加→地域活性化→税収UPで政策実現 ・ 集客が望めないのなら、別の手段を考えるべきである日本だけでなく世界を視野に入れて考える ・ 税収UP、一般産業と比べて単価が高い ・ 長期的成長が見込まれる企業・産業を育てていけば、町の税収も安定する
2. 航空宇宙産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業誘致および雇用促進のため ・ 特徴を利用し企業誘致及び雇用のため住民の理解・協力が必要 ・ 地域住民の雇用促進

	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の強化 ・町の活性化
3. PR事業（イベント、広報）	<ul style="list-style-type: none"> ・航空・宇宙を全面とした町おこし（観光誘致） ・食の流通、災害時の整備等の説明をしてほしい ・シンボル事業、航空・宇宙を前面に出した町全体のイベント ・とよやまチャンネル
4. PR事業	<ul style="list-style-type: none"> ・豊山の活性化につなげるためにまずはPR！！ ・豊山町の事業について知らないことが多いから ・行政及び各種事業を住民に周知するため
1. まちづくり推進	<ul style="list-style-type: none"> ・町主催のイベントを実施
2. 豊山祭の企画、実行	
1. 食の流通	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに豊山町に来てもらうため
1. ファミリーサポート事業	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭に埋もれている有能な人材の活用、※高齢者と子供たちの交流も ・子育て環境を整備することで、他の市町村からの移住を見込める ・孤立したり、悩まないためにも、保育所や託児所の整備が必要。合併するだけでは無理がある ・女性の労働力は以前に比べ大変重要。それを無駄にしないため、子育て環境の整備は不可欠
1. 下水道の早期達成	<ul style="list-style-type: none"> ・工期がかかりすぎもっと早く

c. 【熟議結果の考察】

[表－14]の同一内容の項目を整理した結果を見ると「公共交通機関の充実」と「総合病院の建設」が並んで20票を獲得して1番関心の高い項目となっている。他に同一項目で多いのは、17票の「交通・道路整備」、16票の「土地の有効利用」、13票の「老人や子供が安心して暮らせる町づくり」である。一方で「身の丈にあった街づくり」という項目が12票を集めたのは興味深い。同種の項目を見ると、交通・道路関係の47票が1位で、子育て・子ども・高齢者への配慮が27票で2位、空港・企業誘致・産業活性化が25票で3位、単独項目ながら総合病院の建設が20票で4位、土地の有効活用が16票で5位、以下「身の丈にあった街づくり」、「災害時の避難場所の確保」、「町内コミュニケーションの充実した町」が続いている。全体としては、交通機関・環境の整備に大きな関心があることが浮かび上がったと言える。

[表－15]の結果を見ると、タウンバスを中心とする公共交通に関する提案が最も多く9グループ中8つのグループから提案されている。続いて空港関係の提案と住民リーダーの人材育成が6グループから提案された。まちの美化などの環境整備が4グループから、エネルギーの自給自足、災害対策、医療体制の確立（訪問医療）が3グループとなっている。公共交通に対する関心や空港関係の関心が高いことは一連の熟議の前で変わらないが、住民リーダーの育成やエネルギーの自給自足などの提案が熟議の結果として意見形成の中で存在感を増してきたことは興味深い変化と言える。

最も特徴的な意見変容は、第1回目の町民討議会議【第1ラウンド】ステップ2：30年後の豊山町「30年後の豊山町で是非実現して欲しい目標をグループで話し合っ3つ考えてください」で単独項目として最も票を集めた『総合病院の建設』という項目が、2日目の【第6ラウンド】ステップ6：重点事業の官民協働を考える「18の重点事業に対して、新たに提案された重点事業を加えた中から官民協働の視点から考えたとき、10年後の豊山町にとって特に重要だと思う事業を5つ選んでその理

由を教えてください」では、『訪問医療の充実』という内容に変容したことである。そのほかの項目においても全体の意見の内容の分布構成は踏襲しつつも中身はより現実的あるいは具体的になる傾向がいくつか見られたことは討議プロセスにより参加者の中に公共的志向の比重が増した結果と言えるのではないだろうか。

第4節 物語性の導入による意見変容効果

a. 【熟議のプロセス：第1回 1日目 第1ラウンド、第4回 2日目 第5ラウンド】

b. 【具体的な熟議の内容】：30年後の豊山町

熟議に理性や論証性だけではなく、物語性を導入することによって合意形成の幅を広げ意見変容の可能性を高めることができるという指摘がある。^{註-5}このことを検証するために写真を選択して紙芝居を作るという物語性を持たせた討議プロセスと通常のプロセスの結果の比較を行う。比較の対象は、第1回目の町民討議会議【第1ラウンド】ステップ2：30年後の豊山町「30年後の豊山町で是非実現していて欲しい目標をグループで話し合っ3つ考えてください」[表-14]と第4回目【第5ラウンド】ステップ6：「次の世代に引き渡す30年後の豊山町をイメージしてください」[表-16]の結果である。前者は、ほぼ白紙の状態から自分自身の立場を中心に考えた項目のグループによる選択結果である。後者は事務局が用意した現状の豊山町の地域資源を交えた暮らしのイメージ写真

(14枚)の中から数枚を選択して「30年後の豊山ライフ幸せ物語」というテーマの下、グループで作った紙芝居である。尚、この比較は第1回目と第4回目の町民討議会議の討議プロセスの比較となるため参加メンバーがまったく異なっていることには留意が必要である。

[表-16] 各グループで考えた物語のタイトル

グループ番号	タイトル名
①	私のイメージする豊山ライフ幸せ物語
②	MRJがはぐくむドジョウ寿司
③	30年後のわが町
④	乙女の誕生成長ストーリー～未来への道～
⑤	アナと米の女王
⑥	自力本願の町
⑦	豊山町の楽しい日々
⑧	夏休み僕の夢

c. 【熟議結果の考察】

物語性の導入による効果は、第1回目【第1ラウンド】ステップ2と第4回目【第5ラウンド】ステップ6の結果の違いに([表-14]、[表-18])明確に表れている。物語性の導入による各グループの熟議結果の提案に共通する特徴は、現在豊山町にあるものの良さを次世代に活かそうとする発想にある用と思われる。第1回目の討議結果にもこうした傾向は見られるものの現在不足していると感じられる公共交通機関の充実の問題に選択が集中する傾向が見られた。それに対して第4回目の町民討議会議の「豊山ライフ幸せ物語」では、用意したイメージ写真の中にとよやまタウンバスの写真がないという制約があるとはいえ、選択された写真の多くは空港とMRJ関連(②、③)と残された農地や緑(④、⑤)に集中しており[表-17]、第1回目の「30年後の豊山町」の選択とは異なる傾向が見られる。言葉のみによる討議が効率性や合理性を判断基準として進められがちなのに対して、今回のようにイメージ写真を使って物語性を導入した討議プロセスには、個人の生き方や価値観のようなレベルの判断が自然に持ち込まれるように思われる。このような選択の違いを政策に展開する場合どのように解釈するかがミニ・パブリックスによる熟議の成果を活かしていく場合の一つの課題であるように思われる。

[表-17] 物語作りのために用意した写真と各グループのコメント

			
<p>a) 7 / 9</p> <p>①孫もひ孫も生まれ活気ある町に住んでいる。</p> <p>②人口が増えて子供達が色々な行事に参加しに来る町になってゆきます。</p> <p>③住みやすく、赤ちゃんから老人までいきいきとし新しい命につながっていく町。</p> <p>④まだ開発途中の空港の町で生まれ、希望に満ちた第一歩。両親の大きな愛の優しさで育ち、</p> <p>⑤30年後のある寒い冬。ネコの皮に包まれて、アナをよろしくお願ひします。と書かれた手紙に肉球の印のようなものがありました。</p> <p>⑥赤ちゃんは30年後も可愛いね。30年後も住み続けていられる環境を！！</p> <p>⑦この子が教育行政にどう関わってゆくか無関心</p>	<p>b) 6 / 9</p> <p>①国際空港になった豊山空港から海外に旅行をし、大いに国際交流を町民ができる様になり、</p> <p>②MRJの量産が盛んになり、MRJが豊山町から世界の空へとどんどん飛び立ってゆき、働く人が増えてゆく。</p> <p>③空港があるという利点から、航空実産業が発展し、教育にも力を入れていて、パイロット専門学校・高校・大学がある町。</p> <p>④そんな日々を過ごしたこの子も立派に成長して、なごびよんに見送られて豊山を旅立っていった。両親はこの子が帰ってくるのを応援しながら豊山町で待っている。END</p> <p>⑤FDAを使って朝旅行から帰ってくるとなごびよんが出迎えてくれた。(グッズ買っちゃおうかな)近くに便利な空港があるから新幹線は久しく使っていない。</p> <p>⑥飛行機を見るとやっぱりワクワクする。色々迷ったけどやっぱりパイロットになるぞ！！</p>	<p>c) 5 / 9</p> <p>①国際空港になった豊山空港から海外に旅行をし、大いに国際交流を町民ができる様になり、</p> <p>②MRJの量産が盛んになり、MRJが豊山町から世界の空へとどんどん飛び立ってゆき、働く人が増えてゆく。</p> <p>③空いたスペースにソーラーパネルを！！ 電気を自前用にする。</p> <p>④ここは僕のお気に入りの場所。一番落ちつく所。世界へはばたけ！豊山空港</p> <p>⑤名古屋空港が国内線空港とし自衛隊小牧基地が国際線空港となり、羽田につぐ中部の空の拠点となる。</p>	<p>d) 5 / 9</p> <p>②田畑が残り豊かな自然に囲まれています。</p> <p>③休みの日には自然とふれあい、住民が伝統行事を介して、子どもから老人まで仲が良くキズナが深い。</p> <p>④アナはすすくと大きくなり、皆を引き連れて米を作ろう！！野菜を作ろう！！と言ひ自給自足の豊かな町、豊山町を作りました。そのアナのお尻には小さな子ネコのような小さなしっぽがあったことは誰も知らないことです。</p> <p>⑤空港を出ると自然豊かな光景が目映る子供たちが楽しそうにお花畑や田んぼで遊んでいる。</p> <p>⑥農地を借り、子供達に自分達の給食で「20%位」頂けたら、それにより田が消えてゆく事が少なくなり大雨の時にそこに大雨が流れ多少は、水害が半減するのでは、</p>
			
<p>e) 4 / 9</p> <p>①緑あふれ花で一杯の町になり子供達が幸せを満喫できる町。</p> <p>②休みの日には自然とふれあい、住民が伝統行事を介して、子どもから老人まで仲が良くキズナが深い。</p> <p>③感性豊かな子供達の成長とともに猫も幸せそうに眠れる町で自然と過ごし、田畑で思いっきり遊んだ。</p> <p>④空港を出ると自然豊かな光景が目映る子供たちが楽しそうにお花畑や田んぼで遊んでいる。</p>	<p>f) 4 / 9</p> <p>①町民マラソンも国際レースとなり大いに盛り上がり、</p> <p>②人口が増えて子供達が色々な行事に参加しに来る町になってゆきます。</p> <p>③季節豊かな豊山町では、夏にプールに入り、友達とめいっぱい遊び、帰にはわらび餅を食べた。冬には、エアポートウォークで行われる、エアポートビューマラソンに参加し、色々な人と記録を競い合った。</p> <p>④アナはすすくと大きくなり、皆を引き連れて米を作ろう！！野</p>	<p>g) 4 / 9</p> <p>①こういう町に住む自分が心より幸せを感じています。</p> <p>②感性豊かな子供達の成長とともに猫も幸せそうに眠れる町で自然と過ごし、田畑で思いっきり遊んだ。</p> <p>③食に困り果てた夫婦ネコ。食べるものもなく頼るものもないので二人で話し合い神様にお願ひしよう決めました。</p> <p>④帰ってきた近所を散歩するとネコが寝てる。バスや地下鉄も充実してて道がすいてるからネコもひかれならしい。ネコを見てたら自</p>	<p>h) 3 / 9</p> <p>①町民マラソンも国際レースとなり大いに盛り上がり、</p> <p>②季節豊かな豊山町では、夏にプールに入り、友達とめいっぱい遊び、帰にはわらび餅を食べた。冬には、エアポートウォークで行われる、エアポートビューマラソンに参加し、色々な人と記録を競い合った。</p> <p>③プールで友達とこれからのこと話し合った。僕はある場所を思いつき、友達とわかれた。</p>

	<p>菜を作ろう！！と言い自給自足の豊かな町、豊山町を作りました。そのアナのお尻には小さな子ネコのような小さなしっぽがあったことは誰も知らないことです。</p>	<p>分もうとうとと・・・</p>	
 <p>i) 3 / 9</p> <p>①こういう町に住む自分が心より幸せを感じています。 ②伝統文化がドジョウ寿司など食文化を残しながら、年輩の方や若い人との交流が出来る町。 ⑤どうか自給自足できる子供をお願いします。と、八所神社に何度も何度もお願いに行きました。</p>	 <p>j) 3 / 9</p> <p>②教育もしっかりとしており、豊山町の学区に住みたいと周囲に思われるようになり、次第にタウンバスで通勤・通学する人が増えていきます。 ③空港があるという利点から、航空宇宙産業が発展し、教育にも力を入れていて、パイロット専門学校・高校・大学がある町。 ⑧「わーい、夏休み！！やりたいこといっぱいある。宿題は？あと。まず、プールに行こう！！」</p>	 <p>k) 2 / 9</p> <p>②伝統文化がドジョウ寿司など食文化を残しながら、年輩の方や若い人との交流が出来る町。 ⑥過去にとらわれず、新しいネタを！！</p>	 <p>l) 2 / 9</p> <p>③町外からのアクセスが充実していて、人の行き来が多く、都市の部分があるので、若者も来やすい町。 ⑦ちょっと出かけようとするすぐに町の中心にある都市高速にぶつかる。自動運転の車だから駐車場のもちやすい豊山の人はラッキーだ。</p>
 <p>m) 2 / 9</p> <p>④そんな日々を過ごしたこの子も立派に成長して、なごびょんに見送られて豊山を旅立っていった。両親はこの子が帰ってくるのを応援しながら豊山町で待っている。END ⑦FDAを使って朝旅行から帰ってくるとなごびょんが出迎えてくれた。(グッズ買っちゃおうかな)近くに便利な空港があるから新幹線は久しく使ってない。</p>	 <p>n) 2 / 9</p> <p>⑥町営の老人ホームを作る！！ ⑨町政と住民が双方向に意思疎通して柔軟な施策のできる町。</p>		

※ 1 : 数字は9つのグループによって選択された写真の回数を表示している。(○ / 9)

※ 2 : それぞれの写真に対応した各グループのコメントを記入した。キーワードと考えられる部分を波線で表示

※ 3 : コメントの頭のふられた番号は、グループ番号

※ 4 : 網掛けは【グループ7】のコメント

[表-18] 【グループ7】の紙芝居の事例 ※タイトル:『豊山町の楽しい日々』

<p>① FDAを使って朝旅行から帰ってくるとなごびょんが出迎えてくれた。(グッズ買っちゃおうかな)近くに便利な空港があるから新幹線は久しく使ってない。</p>	
<p>② 空港を出ると自然豊かな光景が目映る子供たちが楽しそうにお花畑や田んぼで遊んでいる。</p>	
<p>③ ちょっと出かけようとするするとすぐに町の中心にある都市高速にぶつかる。自動運転の車だから駐車場のもちやすい豊山の人はラッキーだ。</p>	
<p>④ 帰ってきた近所を散歩するとネコが寝てる。バスや地下鉄も充実してて道がすいてるからネコもひかれならしい。ネコを見てたら自分もうとうとと・・・</p>	

第3章 まとめ

マイクロマクロ媒介問題には二つの側面があると考えられる。一つは個人と熟議参加者間の媒介問題である。これはある程度技術的な問題であり、今回の報告によって検証した部分でもある。熟議民主主義論の規範的アプローチでは、個人的・個別的次元と集合的次元を媒介するのは、個人の意見の変化を引き起こすような熟議の中で生まれる公共精神だといわれている。^{註-6}このことは今回分析対象とした町民討議会議の経験とも符合している。熟議に参加している人々の集合的次元までの媒介問題は、今回提案した4つの視点の検証から明らかのように討議プロセスの設定の仕方によってどのような媒介効果が得られるか、事例を通してある程度明らかにすることができる。

二つ目の問題は、熟議の結果の正当性の問題である。熟議に参加していない人を含めた意思決定にどのように熟議の結果を結びつけていくことができるかというマイクロマクロ媒介問題である。ミニ・パブリックス手法の実施を制度的に位置づけることにより、この部分のマイクロマクロ媒介問題を實際上乗り越えることは可能かもしれない。この制度化問題の根拠を得るために、5年間豊山町で提案し試みてきたのは、第一に討議対象者の範囲(マクロ)をできるだけ小さく設定することと、第二にミニ・パブリックスとして開催した町民討議会議を継続的に繰り返し実施する(毎年1回5年間)という提案であった。この方法によって二つ目のマイクロマクロ媒介問題解決の可能性を示そうとしたのである。実

際、第5回目の町民討議会議参加者に対するヒアリング結果からは、参加者の多くが町民討議会議の討議プロセスとその結果に対して高い信頼感を持っていることがわかっている。^{注-7}

田村は熟議民主主義を現代社会が必要とする民主主義と位置づけ、「熟議」と「民主主義的な権威」の並び立つ民主主義モデルを提起している。^{注-8}そして「熟議的意思決定」と「民主主義的な権威的意思決定」を媒介するのは、人々の「信頼」である。市民討議会の役割は、この「信頼」を社会の中に生み出すことであると考えられることができる。もちろん市民討議会の場の熟議が、時に「政治的争点」化し広範囲の意見形成的な議論に拡大していくこともあるだろう。しかし、多くの場合は「固定的争点」として「信頼」を媒介とした民主主義的権威としての役割を果たしていくことが想定される。これが一つのマイクロ・マクロ媒介問題解決のイメージである。

こうした熟議民主主義的なモデルを豊山町を舞台に思い描くことができるとすれば、このモデルは都市内分権された地域自治組織における自治モデルとして提起することも可能であろう。権威と熟議の「競合的關係」のダイナミックなバランスを保つ民主主義モデルとして、小さな範囲での継続的市民討議会をミニ・パブリックスの制度化の一つとして位置づけることができる。

今後豊山町における社会実験から検証すべき課題は、町民討議会議の熟議の結果に対して非参加者が「信頼」を感じることができるかどうかを検証することである。アンケート結果によりこの点が何らかの形で明らかになれば、ミニ・パブリックスの継続的な開催を制度化する根拠の一つとなるはずである。

[注]

注-1 「人々の声が響き合うとき」 ジェイムズ・S・フィッシュキン 著早川書房 2011.4.20

注-2 「熟議の理由－民主主義の政治理論－」田村哲樹 勁草書房 2008.3.25 p89

『フレイザーは、熟議における共通善への志向性を批判すると同時に、単純な集計モデルをも批判している。人々の利益は熟議の進展と無関係に定められるものではなく、「公共の熟議において、それを通じて言説的に構築される」ものだからである (Fraser 1997:87) .このことは、熟議民主主義における利益の承認を、変容しない利益の集計と同一視する必要はない、ということを示唆する。』

注-3 「熟議の理由－民主主義の政治理論－」田村哲樹 勁草書房 2008.3.25 p95

注-4 「ワールド・カフェーカフェの会話が未来を創る－」

アニータ・ブラウン、デイビッド・アイザックス、ワールド・カフェ・コミュニティ 著
香取一昭、川口大輔 訳 株式会社ヒューマンバリュー 2007.9

注-5 「熟議の理由－民主主義の政治理論－」田村哲樹 勁草書房 2008.3.25 p81

注-6 「熟議の理由－民主主義の政治理論－」田村哲樹 勁草書房 2008.3.25 p39

注-7 第5回町民討議会議参加者ヒアリングの記録から (2016.3.27-28)

「僕がその場にもそんなだろうなど。なので間違いがないだろうと思います」

「無作為の町民が集まっているんだということをみんなが知っていればある程度信頼されると思いますし、1回でも参加していれば正直、議会よりは遙かに信用できると思います」

「身近に1人でも参加している人がいれば、信頼度は断然違うと思います」

「そういう意味では小さい町で何回かやると、そういう人が増えるだけでも、内容は兎も角として信頼感は増す。僕はこれ、豊山町の行事的にずっとやってもいいのかなという気がしますけどね。町政への住民の直接参加的な意味で。参加した町民が1割を越えたら違うと思います」

ね。1,000 ～ 1,500 人ぐらい。町民議会という形で毎年やるんだったら、それは町の売りにもなるのかなと思いますけどね」

「その場に参加した人達が集まって出した意見なんだということは認めますね。その意見で決まったらどうするかというのはまた別なんですけど、そういう意味では尊重します」

「ただそういうところで自分が参加しなくて出された結論ということだったら、この間のような方式でやるということは信頼性はあると思っています。出た結論としてはね。だけどそれがもう一回、本当に信頼できるか、自分に関わって討議するということになると、そこではまた自分の意見を伝えるということになると思いますけどね。ただ信頼はおける方式だと思います」

「出ていない回の議論も信用出来る。それなりに皆さんの意見を聞いてくると、ああした方がいいということはありません」

「内容によると思うんですけど、やはり皆さんの総体的な意見がこうでしたら、その分は何か利用していく価値はあると思います」

「過程は見ていて、信頼はできるということですね。全然、強引に誰かが引っ張って結論を出すということではなくて、意見を自由に気軽に言って出てきた中での結論だったら、それはそれで信頼、ああいう討論形式を実際に見て、その通りにやられていればある程度の信頼はおけるという意味なんです」

注－8 「熟議の理由－民主主義の政治理論－」田村哲樹 勁草書房 2008.3.25 p168